

新年あけましておめでとうございます。皆様には、心新たに仕事始めの日を迎えていただいたことと思います。平素より様々な分野で奈良県の子どもたちのために御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業という未曾有の事態からのスタートとなりました。しかし、そのような中にも学びを止めないための努力を惜しまない多くの教職員の姿がありました。あらゆる手段を考え、試行錯誤を繰り返しながら感染症対策と教育活動の両立に奮闘していただいたことと思います。

このコロナ禍にあって、県教育委員会では、昨年4月末には、県内の公立学校が同一ドメインでGoogleの学校向けサービスを使用できる環境を用意して児童生徒や教員へのアカウントを発行し、その結果、多くの市町村で使える環境が整いました。

期せずして、国はGIGAスクール構想を前倒しで進めていくことに舵を切り、奈良県でも年内にすべての公立小中学校で「一人一台の端末」が実現することになりました。このことにより、コロナ禍や災害時においても、県域で学びを止めない教育活動を行えるようになります。先行きの見えないコロナ禍ではありますが、この状況を変化のチャンスと捉え、挑戦していくことが大切だと思っております。

さて、今、新型コロナウイルス感染症によって、社会の変化が突きつけられ、我々人間も否応なく変化を求められています。このような急激な変化にいかに対処すべきかについて『チーズはどこへ消えた?』という本は大きなヒントを与えてくれます。

登場人物は迷路のなかに住む2匹のネズミと2人の小人。彼らは迷路をさまよった末、チーズを発見します。ところがある日、そのチーズが消えてしまいます。ネズミは本能のまま新しいチーズを求めてそれぞれに走り回る一方で、小人たちはなぜチーズがなくなったのかと原因分析に躍起。やがて、一人が新しいチーズを探しに旅立つ決心をします。この物語におけるチーズは、ただの食べ物ではなく、私たちが人生で求めるもの、たとえば仕事や家族などの象徴です。童話のようでもあり哲学書のようでもあり、示唆に富んでいます。最後に、本書はこう結んでいます。「変化は起きる。変化を予期せよ。変化を探知せよ。変化に素早く適応せよ。変わろう。変化を楽しもう。進んで素早く変わり、再びそれを楽しもう。」

今回はコロナという強力な外敵が我々に変化を求めてきています。我々は、場当たりの対応ではなく、10年以上先を見据えた主体的変化をしていかなければならないと改めて感じた次第です。

県教育委員会では、新学習指導要領を踏まえながら、時代の変化に対応した新しい高等学校づくりを推進するため、県立高等学校適正化実施計画を策定し、「魅力と活力あるこれからの高校づくり」をテーマに学校再編や教育内容の再編成に取り組んでいます。

昨年4月、県立国際高等学校が新たに開校し、今年4月には奈良商工高等学校、高円芸術高等学校、商業高等学校、奈良南高等学校が開校します。新たな時代に対応した魅力的な教育が展開されることを期待しています。

また、子どもたち一人一人の「学ぶ力」「生きる力」を育む「本人のための教育」を行うことを本県教育の目指す方向性として策定される第2期「奈良県教育振興大綱」を受け、県教育委員会でも「奈良の学び推進プラン」の策定を進めています。

新しい時代の新しい「学び」の在り方に、我々教職員、子どもたちは決して臆することなく、立ち向かっていかななくてはなりません。この「奈良の学び推進プラン」を実現し、時代の変化に対応し、進化を続ける学校をより一層支援してまいりたいと考えています。

本年が皆さんにとりまして、明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

令和3年1月4日

県教育委員会教育長 吉田 育弘